

令和5年度地域生活定着支援人材養成研修【管理職員研修】

# 地域の総合力を生かした事業実施

沖縄大学人文学部福祉文化学科

教授 島村 聡

(おきなわ障がい者相談支援ネットワーク)

令和5年12月

# 講義内容

- 1 利用者から定着や地域はどう見えているのか
- 2 利用者を支えるネットワークとは何か
- 3 利用者中心の社会資源の活用・改善・開発
- 4 地域づくりのために コミュニティ・ソーシャル  
ワーク

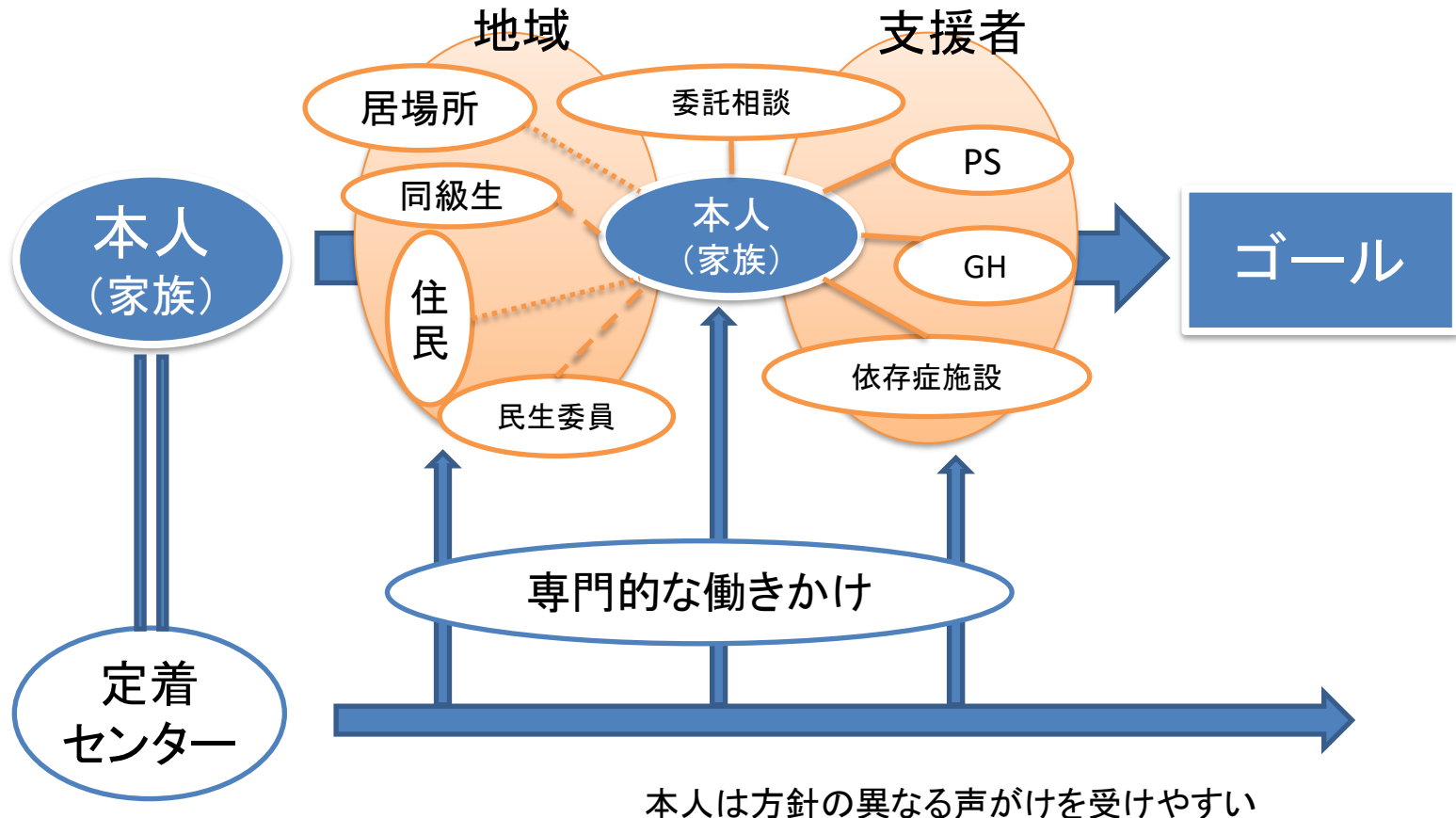
# 1 利用者から定着や地域はどう見えているのか

## ポイント

- 1 利用者は(新たな)地域でリカバリー(新たな人生)を目指そうとしている。
- 2 「定着」には利用者にとって居心地のよい住まいと居場所を案内することが期待されている。

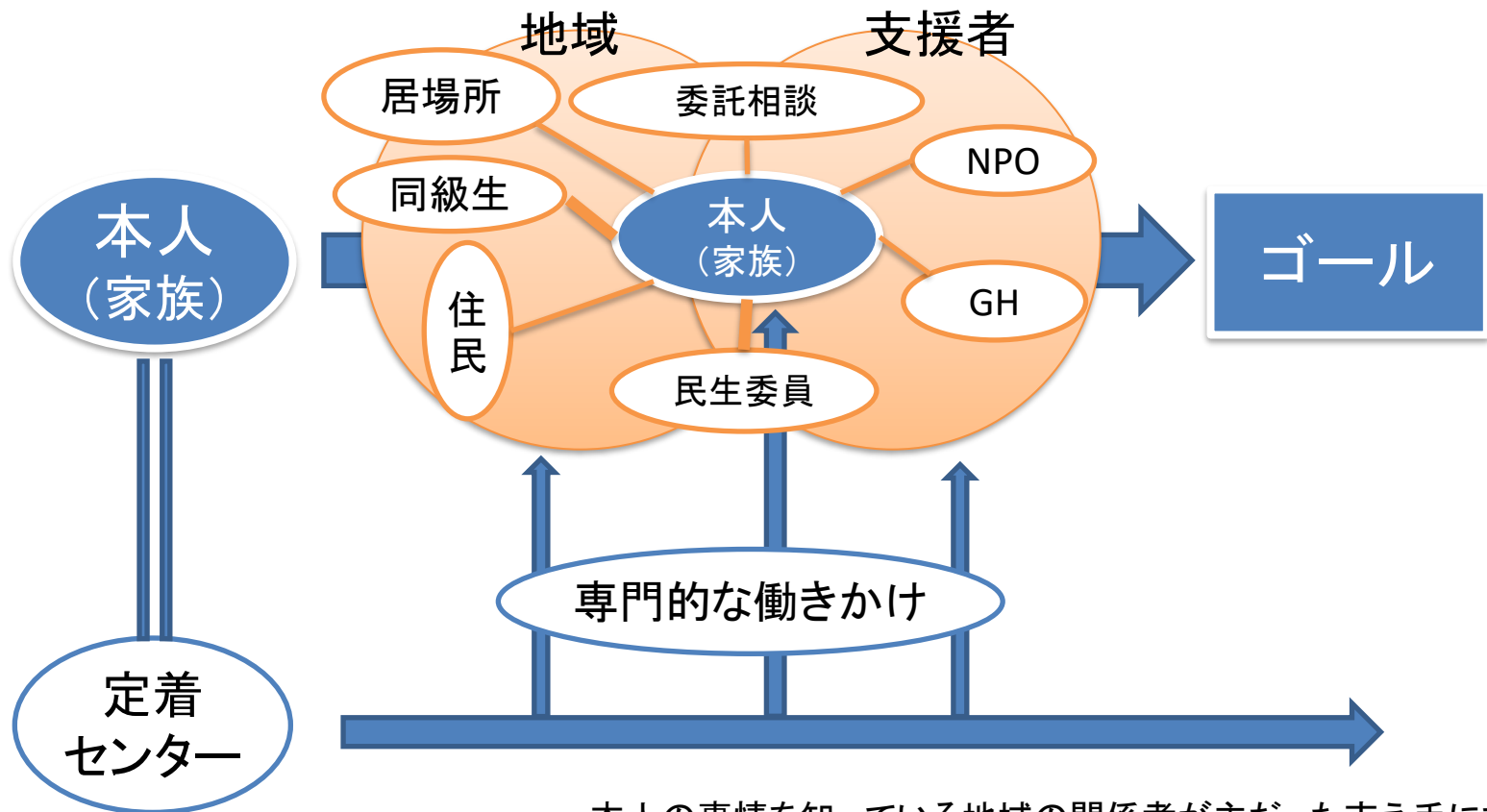
# 初期で多いモデル

関わってくれる人がいないと地域にいる意味がないため関係づくりを進める。支援者は各々がその立場で関わっているがバラバラであり、より地域につながりを持つ支援者が中心となる可能性が高い。



# 地域に本人を支える形がみえる

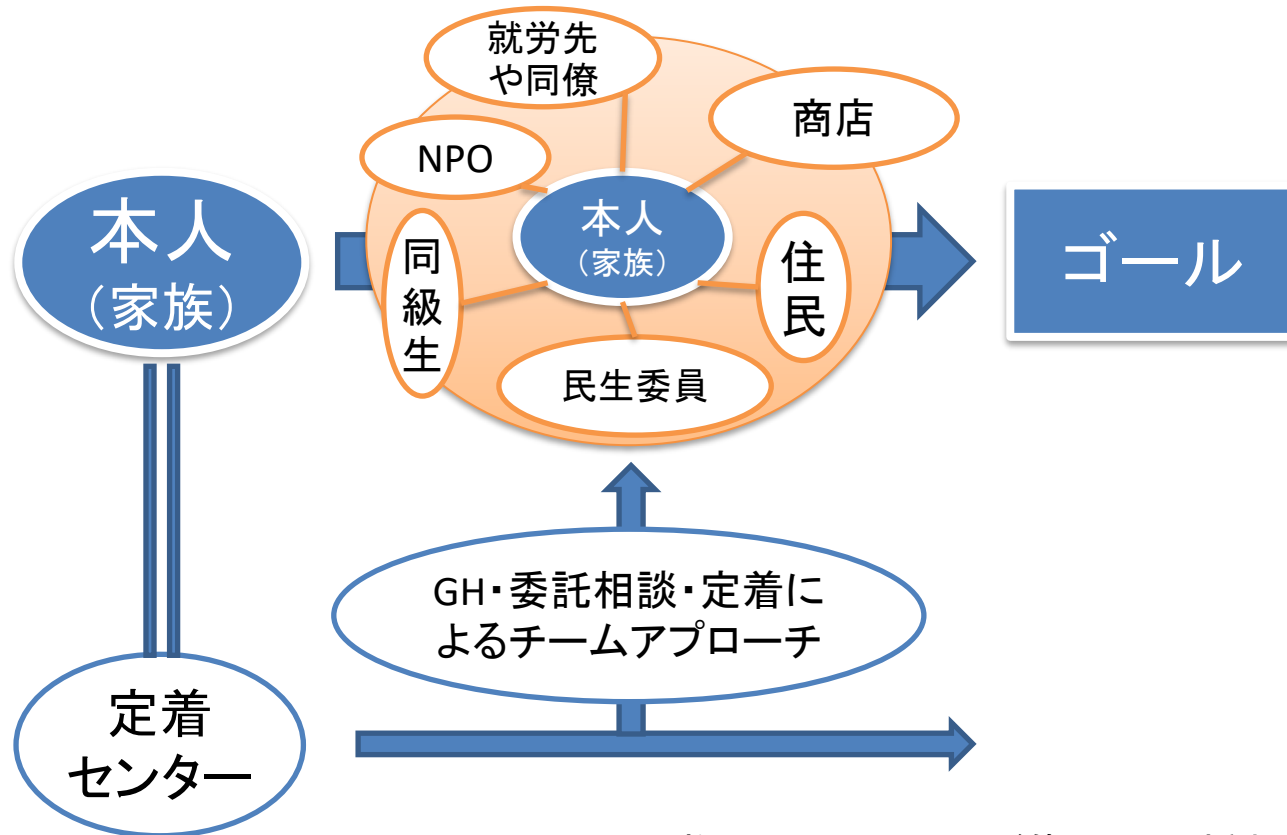
GHが地域に認知され、就労支援を行う地域のNPOが支援に参入、民生委員が地域住民との橋渡しをするなどして本人をめぐる地域と支援者の距離が縮まる。



本人の事情を知っている地域の関係者が主だった支え手になる。

# 理想的なモデル

本人を自然な形で見守る就労先や同僚、商店や住民が増え、事情を知って関わるNPO、同級生とともに支えている。専門職はチームアプローチにより地域の支え合いをバックアップ



本人(家族)の地域との関係が築かれ、支援者は地域に対して統一的な関わりをするチームアプローチが出来ている。

## 2 利用者を支えるネットワークとは何か

### ポイント

- 1 利用者がリカバリーを果たすことをオープンにして見守る人たちと何も知らずに自然に関わる人たちがいる。個人情報保護の調整はその意味で大切な技術である。
- 2 地域で生きることはそういうことだと利用者も理解する必要がある。
- 3 そもそもつながるとは何なのか。意義について考えてみる。

## 2-(1) 刑余者に関わる施設、機関、組織

地域生活定着支援センター

保護観察所

更生保護施設・自立準備ホーム

福祉事務所(生活保護・生活困窮・高齢者・障害者)

地域包括支援センター

介護支援事業所

基幹相談支援センター

委託・指定相談支援事業所

保健所、保健センター

婦人相談所、女性センター

公共職業安定所(ハローワーク)

地域障害者職業センター

就業・生活支援センター

社会福祉協議会(CSW、生活支援員)

国選弁護士、弁護士会、法テラス

地域若者サポートステーション

居宅介護支援事業所・訪問看護事業所

就労継続支援B型事業所・就労移行支援事業所・地域活動支援センター

パーソナルサポートセンター

グループホーム、養護・有料老人ホーム

精神医療機関

通信制高校・夜間中学・学習支援

警察、保護司、**非行少年の居場所**

**職親・協力企業**

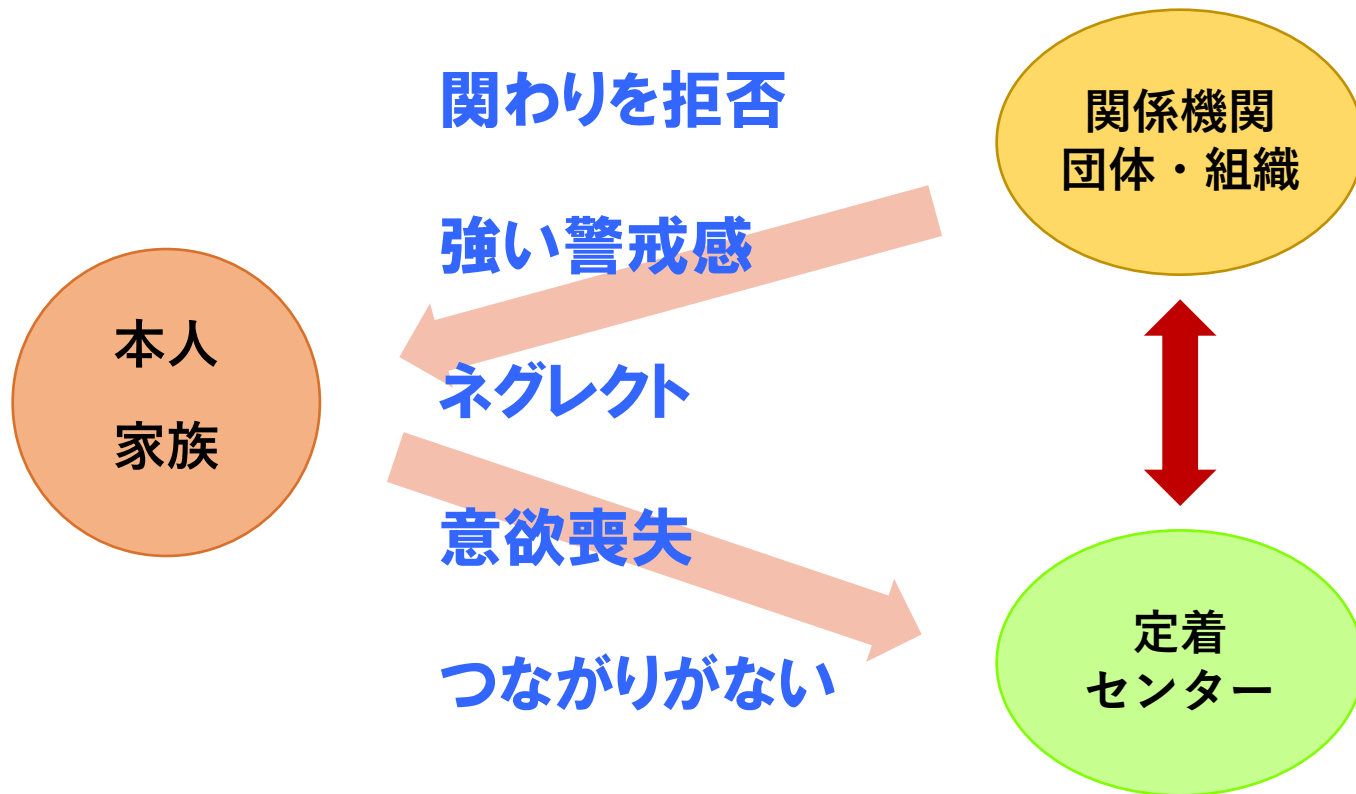
**依存症支援団体(AL、薬物)・断酒会**

**民生委員児童委員**

**自治会、区長会、青年会**



## 2-(2) 利用者とのつながりにくさを共有する



## 2-(3) 困難事例の特徴と対応

- 制度や支援に繋がりにくい(要件に合わない)  
→ 寄り添い型の支援と強固な支援ネットワーク
- 家族や周囲にも多くの問題がある(ネグレクト・無意識)  
→ 家族全体を観たアセスメントと他職種協働
- 支援を遠ざけ、地域から敬遠される(拒否的・厭世的)  
→ 支援の見える化と本人と地域との接点づくり
- 社会資源が見当たらない(制度適用ほどではない)  
→ 住民の関わりづくりから小さな支援の輪へ

## 2-(4) 様々な人たちが本人・家族に関わっている

- ① 民生委員協議会、自治会、PTA等の**地域組織**
- ② 子どもの親の会など**福祉・当事者団体**
- ③ 小中高等学校、専門学校、大学等の**教育機関**
- ④ 商店街、商工会、農協、漁協、工業会、銀行、郵便局等の**企業・金融・経済団体**
- ⑤ 弁護士会、司法書士会、社労士等の**法曹関係団体**
- ⑥ 医師会、社会福祉士会等の**福祉医療専門職団体**
- ⑦ 芸術、文化、スポーツ等の技術を持った**職能団体・個人**
- ⑧ 助成金交付、物的人的支援を行う**公益団体**
- ⑨ 新たに福祉向上を目的として結成された**NPO・個人**
- ⑩ その他問題**解決に役立つメンバー**

相手の課題を自分の課題とする

相手の組織にも必ず改善者がいる

## 2-(5) つながれば良くなること(意義)

- ①困っていることを拾い上げる(ニーズ発見機能)
- ②必要な相談先につなげられる(相談連結機能)
- ③直接関わり、支えることができる(介入機能)
- ④当面の間の見守りが出来る(見守り機能)
- ⑤回りの意識が不信から理解へ(地域変革機能)

『地域包括ケアシステム構築のための地域におけるソーシャルワーク実践の検証に関する調査研究報告書』、2005年3月、(社)日本社会福祉士会、pp.37-41を参考に改編

## 2-(6) つながることの弊害(課題)

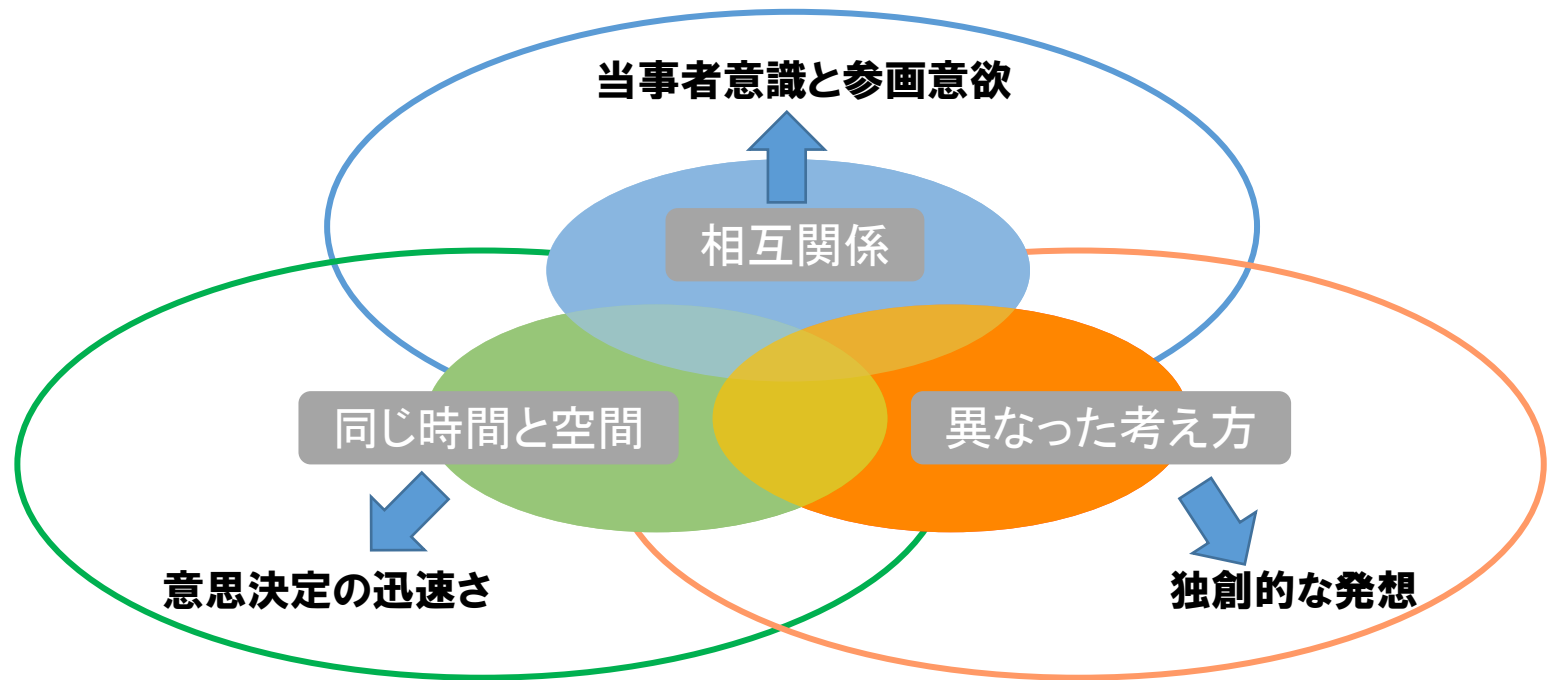
- ① 個人情報情報の漏洩(情報の提供範囲の確定)
- ② 支援目標の不合(支援会議での目標確認)
- ③ 介入範囲の制限(役割分担の明確化)
- ④ 主たる責任者不在(責任組織の明確化)
- ⑤ 周辺関係者の誤解(関係者へ支援体制の周知)

誰とつながれば良いのか、どのようなことを共有すればいいのかなど事前に見極めてつながる必要性

## 2-(7) ネットワークづくりのコツ

- ① 周辺領域を探るアンテナを持つこと
- ② 異なる意見を取り込み、対立させないこと
- ③ キーマンの支援を怠らないこと
- ④ こちらの枠を一つ外すこと
- ⑤ 2つでダメなら3つの力を合わせることに
- ⑥ 課題解決だけでなく付加価値を創ること

## 2-(8) いいチームになるための会議



野中猛ほか「多職種連携の技術」中央法規(2014)

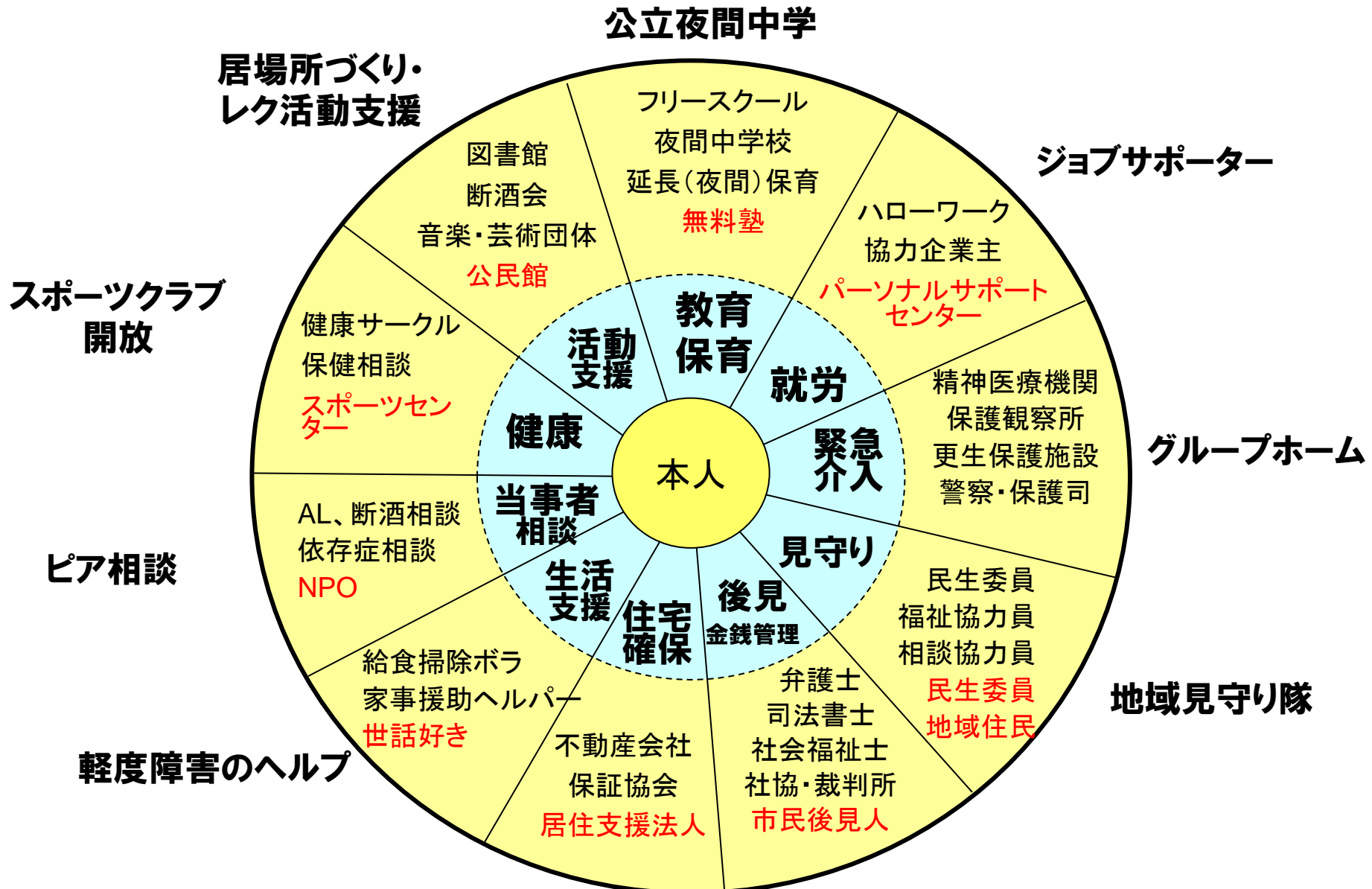
# 3 社会資源の活用・改善・開発

## ポイント

- 1 地域生活のためには、本人目線でニーズを把握して、必要な資源に繋ぐことが基本である
- 2 必要な資源が使いづらいときには、その改善を図り、場合によっては新たな資源を開発する
- 3 ここでは、どのような視点で利用者のニーズを拾い上げるのか、どのような社会資源が必要となるのかについて言及する



# 3-(1) 出所者の社会資源の例



## 3-(2) 本人中心のアセスメント

### 本人の目線で地域の資源や可能性を見つける

#### 地域の関わり

- 【1】本人が参加・所属している地域組織または参加したがっている組織について
- 【2】本人の交友相手〈友達〉について
- 【3】本人が所属している当事者組織について
- 【4】本人に(福祉的に)関わっている人や組織・企業〈商店〉・隣人について
- 【5】本人が見込んでいる相手〈相談に乗ってくれたり、困った時助けてくれる人〉行きつけの商店・診療所の医師・隣人について

#### 頼りになる資源

- 【6】本人の親族で、本人が頼みにしている相手について
- 【7】本人の近隣は、本人にとっていい近隣か。
- 【8】本人の周囲で、活用できそうな福祉資源はあるか。
- 【9】本人にとって「隠れた資源」となっているもの〈本人を元気にさせているもの〉について

#### 本人のパワー

- 【10】本人は地域に対して、どんな資源性を有しているか。
- 【11】本人にとっての資源同士のネットワークの状況はどうか。
- 【12】本人の自宅〈居住場所〉は、どんな資源性を有しているか。
- 【13】本人のセルフケアマネジメント能力〈自分の状態を正確に把握・ハンディの中身も客観的に把握・その克服策の工夫・必要な資源を発掘・活用する資質等〉の評価をしてみよう。



## 3-(4) 社会資源開発(考え方)

- 対象が他でも使えないか(制度)
- 「ついで」はないか(運行ルート、業務の範疇)
- 兼用ができないか(建物、車輛)
- 少しお金を出せば使わせてもらえないか(民間事業)
- 教育的に使えないか(学生、地域住民)
- 本人自信が役に立つか(なごむ、元気づけられる)
- 具体的データを積み重ねて要請ができないか

# 3-(5) 社会資源開発演習実例 (障がい者編 1998年～2013年)

- 病院や自動車教習所の送迎バスで買い物支援
- 公営住宅でグループホームをルール化
- 保証人と物件探しをセットした居住サポート
- 消防署を自閉症活動センターに
- 公園の管理棟を作業所→B型事業所に
- グループ就労で3障がいの壁を越える
- ボランティアでジョブサポーター
- 元ホームレスによるベロタクシー運行
- 遺骨収集でホームレスの雇用
- 院外デイケア「WRAP」で退院を促進
- 入所者の権利擁護のためのオンブズマン

## 4 地域づくりのために コミュニティ・ソーシャルワーク

### ポイント

- 1 定着のワーカーはジェネラリストソーシャルワークを基礎としたワーカーであり、コミュニティ・ソーシャルワークの実践者である。
- 2 大橋の定義がある程度理解できることを目安にする

## 4-(3) ソーシャルワーカーの役割

### アウトリーチ (outreach)

専門的支援が必要だと考えられる人に支援の存在を知らしめる

### アセスメント (assessment)

個人、家族、組織、地域のアセスメントを行う

### イネーブラ (enabler)

問題解決に向けてクライアントシステムを支え、励まし、アドバイスする

### 仲介者 (broker)

クライアントシステムが必要とする社会資源につなげる

### ケースマネージャー (case manager)

クライアントに代わって、複数の事業者等によって提供されている必要なサービス等を調整する

### 教育者 (educator)

ターゲットシステムに情報提供し、教育する

### 調停者 (mediator)

対立するミクロ、メゾ、マクロシステム内、間の争いや意見の相違を解決する

### アドボケート (advocate)

公正な役割やニーズの充足を実現するために、クライアントの代弁や権利を擁護する

### つなぎ役 (linkage)

人々や組織とをつなぐ

### オーガナイザー (organizer)

ある機能を果たすために、人々や集団を組織化する

### ファシリテーター (facilitator)

複数の人々の相互作用を促進する

### プランナー (planner)

目標の設定及びプログラム等の計画を策定する

### マネージャー (manager)

活動や組織の管理を行う

### 調査者 (researcher)

実態等を調査するとともに、事業や実践の効果を評価する

### スポークスパーソン (spokesperson)

発信する

### コンサルタント (consultant)

専門的なアドバイスや提案などを行う

### アクティビスト (activist)

社会変革に向けてソーシャルアクションを行う

## 4-(4) 地域づくりの3つの方向性

### ① まちづくりにつながる地域づくり

地域の産業や文化、地方創生との連携  
福祉分野以外との連携と基盤構築

### ② 福祉コミュニティとしての地域づくり

福祉関係者のネットワーク  
対人援助の多職種連携

### ③ 個を支えることができる地域づくり

近隣のソーシャルサポートネットワーク  
見守り、生活支援、居場所づくり

地域力強化検討会「中間とりまとめ」(2016年12月26日)